
Something Special

～特殊メイクと特殊造形物への挑戦～

第1章 プロジェクトの目的と概要

1. プロジェクト目的

本プロジェクトではシリコン・樹脂といったような扱いの難しい素材の研究と、特殊メイク・特殊造形物制作の技法研究を主な目的としている。現在では日々、様々な素材が開発され、特殊メイクやアートの現場では次々と新素材が取り入れられ、制作が行われている。その状況の中で、大学生である私たちが授業内でそれらの素材を扱うことは非常に稀で、使用する素材は限られている。その要因としてはそれらの素材が非常に高価であると共に、高度な技術が必要であることが挙げられる。しかし、現状のまま、これらの素材に対して手をこまねいては表現の選択肢がいつまでも広がらない。よって、本プロジェクトで得た知識や経験は最終的に大学全体に還元し、学生あるいは教員の制作において、その方法の一選択肢として共有されることを目標とする。

2. プロジェクトの概要

特殊造形物に関してはダミーヘッドと言われる実在する人物の複製のような彫刻作品を制作する。具体的には代表者である上路のダミーヘッドの制作を行っている。

特殊メイクに関しては藤陵祭で行った傷メイクと吸血鬼風のマウスピースの制作を行った。

3. 代表者および構成員

・代表者

上路 市剛 美術領域専攻 2 回生

・構成員

吉本 茉由 美術領域専攻 2 回生

4. 助言教員

小林 良子先生 (美術科)

第2章 制作工程 (※印には脚注有り。また写真は最終項にまとめて掲載。)

1. 特殊造形 (ダミーヘッド) 編

(1) 水粘土で原形を制作する。この際、型取りの時に邪魔になるので耳は付けずにおく。

(2) ※アルジネイト (型取り材) を水粘土に塗り、石膏包帯で補強する。その後脱型して型を洗浄。アルジネイト型が完成。

(3) このアルジネイトの型に熱して液状になった油粘土を流し込み、水粘土の原形を油粘土に置き換える。油粘土に置き換えることによって皮膚の細かいテクスチャーの彫刻が行い易くなる。

(4) 置き換えた油粘土に細密なテクスチャーを彫刻して油粘土の原型が完成する。

(5) シリコンで型を取り※FRP で補強する。その際シリコンにはガーゼを貼り付けてちぎれ防止の処理を行う。その後脱型してシリコン型完成。

(6) 出来上がったシリコン型の内側に 1cm 程度の厚さに水粘土を敷く。そして、その表面を FRP でコーティングする。その後、水粘土を排除。この工程で出来たシリコン型と FRP の隙間にシリコンを流し込むことによって油粘土原形がシリコンに置き換えられる。

(7) 流し込み用のシリコンに着色を行う。今回はシリコン用の着色材と油絵具、フロツ

キングと呼ばれる繊維を砕いたものを使用する。フロッキングを使うことによって均質でない微妙な肌色や毛細血管の表現が行える。

(8) 工程(6)で作ったシリコン型とFRPの隙間にシリコンを流しこむ。シリコンが硬化したら脱型。これで完全に油粘土原形がシリコンに置き換えられる。

(9) 出来上がったシリコンの表面にペイントを施す。シリコンはその性質上シリコン以外の物質とはくっつかない。よってペイントには透明のシリコンに色をつけたものを薄めてエアブラシまたは筆を使用して行う。

(10) ペイントを終えた作品に植毛を行う。ビーズ針と呼ばれる極細の針の糸を通す箇所先端を切断する。この部分に毛を引っ掛けてシリコンに差し込む。これで植毛は完了。これを必要な箇所全てに施す。

(11) 植毛完了後、義眼を嵌め、全工程が終了する。

2. 義歯(吸血鬼風マウスピース)編

(1) アルジネイトで歯型を取り、石膏に置き換える。

(2) 出来上がった石膏歯型に粘土で彫刻する。

(3) 完成した彫刻をシリコンで型を取る。シリコン硬化後脱型。

(4) 工程(2)で彫刻した粘土部分を除去。これによって石膏歯型とシリコン型の間に隙間ができる。シリコン型に※歯科用レジンを流し込み、石膏歯型を押し当てる。その際石膏歯型にワセリンを塗り、レジンがくっつかないようにする。

(5) レジンが硬化したら脱型。

(6) 出来上がったマウスピースの余分を削り落とし、着色して完成。

3. 傷メイク編

(1) Gel-10と呼ばれるシリコンにBBクリームで着色したものを肌に盛る。

(2) シリコンが硬化したら※タトゥーカーで着色する。

(3) はちみつに食紅を混ぜて血糊をつくる。それを傷口に塗る。これで傷メイク完成。

第4章 まとめや反省、今後の展望など

今回の研究は技術的に非常に挑戦的なものであったため、各工程における課題を克服することが困難であった。粘土で精巧な原形を制作することや、シリコン・樹脂を用いた型取り、彫刻への着色や特殊な材料の扱い等、今回新たに身につけた技術は枚挙に暇がない。これらの必要な技術を習得するために、他大学を訪ねて教えていただき、また材料屋の方に素材の扱い方を教えていただいた。今回のe-Projectで援助いただいたおかげで、高価な材料を扱え、それを使いこなすために必要な技術を身につける契機となったことは本当にありがたいことであった。この非常に濃密な経験は今後の制作活動において大きな意味を持つであろうし、自信と確信を得ることができた。

しかし今年度制作したものは技術的に至らない点が数多くあり、今後における課題は山積している。特に特殊メイクに関しては本格的なものを行う事ができず、プロジェクト開始時の予定と大きくことなった結果となった。その主な要因としては、メイクを行う技法が特殊すぎたため、今回制作した彫刻作品との

両立が無理であったことが挙げられる。私の現在の技術力が追いついていなかった。

今後機会があれば特殊メイクの本格的内容に触れてみたいし、また彫刻においても更なるレベルアップを図りたい。

<脚注>

アルジネイト : アルギン酸の混ざった型取り材。寒天のようなもの。今回は「かたとって」という商品を使用。

FRP : Fiber Reinforced Plastic の略。ガラスの繊維を※樹脂に貼り付けて樹脂の強度を高くする。

樹脂 : ここでは不飽和酸ポリエステル樹脂のことを指す。この素材は2液混合タイプの樹脂で、扱いやすいが、硬化の段階で縮みが出る。

歯科用レジン : 常温重合レジンとも言う。入れ歯の素材。パウダーと液体を混ぜることで効果する。硬化時間が非常に短いので加工が容易。

タトゥーカラー : 特殊メイク用の絵の具。アルコールで溶けるのでメイクを施し易い。

第2章 制作工程 の画像一覧

1. 特殊造形 (ダミーヘッド) 編

(2)



(3)



(4)



(5)



(9)



(8)



(11)



2. 義歯 (吸血鬼風マウスピース) 編

(2)



(6)



3. 傷メイク編

(1)



(3)



藤陵祭で行ったメイク



完成作品

ダミーヘッド

